

平成 21 年度荒川地区地域審議会の意見書に対する市方針

1. 地域の特性を活かした居住環境の整備について

荒川地区は、村上市の都市拠点の一つとして位置づけられる地区であり、鉄道路線や国道に加え、日本海東北自動車道の IC、それを国道と結ぶ高規格道路が開通し、交通アクセス機能が大変充実している地域です。

また、国道 7 号沿線には、この地域の医療拠点施設である県立坂町病院や商業施設等が立地しており、居住環境の面で優れた地域であると言えます。

これらの地域特性を踏まえ、以下のことについて提言いたします。

高速交通網の整備に伴い、他の圏域とのアクセスが容易になった一方で、この地域が空洞化していく事が懸念されます。商業機能をさらに充実させ、賑わいのある商業拠点を形成するなど、この地区の魅力を一層向上させていくことが必要であると考えます。

安心して暮らせる地域であるためには、地域医療拠点施設の充実は大変重要な要素です。県立坂町病院は、昭和 24 年発足以来この地域の中心的な公的医療施設として、地域住民の大きな期待に答えてきたところですが、近年、常勤医師が減少し、中核病院としての機能が低下してきており、地域住民にとっては大きな不安となっています。このため、県立坂町病院活性化協議会が組織され、常勤医師の確保について要望活動を行っているところですが、利用面からの活性化を検討することも大切であると考えます。病院利用者の多くを占める高齢者など交通弱者に対して、自宅から病院までの移動を容易にすることは、受診機会の充実や利用者の範囲拡大に繋がるものであり、延いては要望活動にも反映されていくものです。現在の路線バス運行から、新たな公共交通ネットワークへの移行が検討されていますが、より高齢者などの交通弱者に配慮した運行システムを導入し、他地区とネットワーク化することで、交通面の環境整備に加えて、県立坂町病院の活性化にも大きな効果を生むものと考えます。安心して住めるまちづくりの実現に向けて、市と地域が一体となって取り組んでいくことが必要です。

優れた立地の当地区ではありますが、若者たちにとって十分な職場が確保されているとは言えず、就職のために他所で生活することを余儀なくされるケースもあります。村上市教育基本構想では、教育の取り組みを通して“愛着と誇りの持てる住みたくなるまちづくり”を推進しており、地域の宝である子どもたちが将来この市で活躍できるような雇用環境の整備は、市全体が抱える課題です。その中で当地区は、交通機能が充実したことによる通勤範囲の拡大や、地域医療を充実させることによる安心感の向上に加え、積極的な宅地化の推進などにより、ベッドタウンとしての条件整備を進めていくべきであると考えます。そして、保育施設の整備や産科・小児科医療体制の充実といった、若い世代の人たちが「ここで生きる」ための魅力ある環境づくりを推進していくことが望まれます。

【方針】

市の南側の玄関口である荒川地区は、総合計画の土地利用構想においても都市拠点の一つとして位置づけられています。

交通網の利便性を活かしながら商業・医療などの都市機能の充実のほか、若者定着・Uターン者の受け皿となる生活しやすいまちづくりを、雇用機会の確保等、定住対策施策と合わせ推進していく必要があります。

また、公共交通システムについては、平成 22 年度に住民懇談会開催を計画しており、地域の意見を集約しながら、地域に定着し、持続可能な公共交通を目指していきます。

2. 地域の良さをPRする取り組みについて

この地区は、旧来より人と自然が共生するまちづくりを目指してきました。利便性の高さと豊かな自然というこの地域の良さが両立した魅力的なまちをつくることは、合併した現在も変わらない目標として掲げるべきことであると考えます。こうしたこの地域の素晴らしさを内外にPRし、振興を図るために、以下のことを提言いたします。

「日本一の清流 荒川」は釣りの愛好家など一部には知られているものの、地域資源の活用としてはまだまだPR不足で、知名度も高くありません。しかし、「母なる川」清流荒川とこの川に育まれる多くの実りは、それぞれ品質も高く、地域が誇るべきものです。きれいな水で育った安心して消費できる産物として、清流荒川のブランド化を推進し、米などの農産物や魚だけでなく、様々な加工品などの付加価値を高めていくことにより、地域の活性化に繋げるべきだと考えます。また、清流荒川に代表される自然環境の良さをPRするために、河川のクリーン作戦、植樹活動、里山の整備など、現在は個々に取り組まれている民間団体の活動を、清流を守っていく取り組みとして位置づけて支援をし、清流荒川をみんなで守っていこうという機運を高めていくことが大切であると考えます。地域が一体となった環境保全活動をPRすることは、前述のブランドイメージを高める効果があるものです。

村上市の「南の玄関口」である当地区は、日東道荒川胎内ICが開通し、新潟市方面や米沢市方面から来訪する人たちにとって、村上市の顔としての役割をより一層求められている場所だと言えます。また、この地区は利便性と豊かな自然から、生活しやすい地区であるという良さもあります。村上市の南の顔としてふさわしい、また、この地域の良さを感じてもらえる、「住んでみたい・住んでよかった」と思ってもらえるような景観の形成に取り組むことは、少子高齢化の中にあって、定住人口増加のために重要な要素であると考えます。今後は、公共施設の整備や管理の中において景観的配慮を高めることや、ボランティア等による景観整備活動など、地域のイメージを高めていく施策を推進し、この地域及び村上市の良さをPRしていくことが望まれます。

【方針】

荒川では、清流荒川における鮭資源の有効利用と自然環境保全を推進し、地域振興に資することを目的に平成19年度から、サケの釣獲調査が行われておりますが、今後も観光資源である清流荒川をPRしていくとともに、産業等の活性化支援補助制度による、農林漁業関係者と商工業者の連携により新たな特産品等を開発するための支援を行っていきます。

地域の活性化を図るため、平成23年度から「協働のまちづくり」の取組に向けて、本庁に自治振興課、各支所地域振興課に自治振興室を設置し、制度を周知するなどの準備を行っていきます。

地域それぞれで抱える課題も違いますが、それに対し地域が解決し、特色を活かした魅力ある地域をつくっていく制度です。自治振興室職員を各地域の担当職員として配置する予定となっており、市でも協力体制を整備し、市民・行政一体となった事業を進めていきます。